KENMIN NO AYUMI
令和2年9月号
No.617
2020 9
# 県民のあゆみ
山形県広報誌

こまめな手洗い・手指消毒を

症状がなくともマスクは忘れずに

定期的に換気を

身体的距離を確保

公共の場でも「新・生活様式」が浸透しています。
(撮影場所:山形県立図書館)

# 「新・生活様式」で新型コロナを予防しましょう!

P.2 新型コロナウイルス感染症 関連情報
P.4 特集「山形の園芸農業を支える花き生産 ～競争力の高い産地を目指して～」
P.8 奏であう人「自然と歴史を組み合わせて新たな地域資源に」
P.16 やまがた伝説「松尾芭蕉像」

山形県広報誌 令和2年9月号
県民のあゆみ
9 No.617
奇数月1日発行 編集発行◎山形県広報広聴推進課
〒990-8570 山形市松波二丁目8番1号 ☎023-630-2534
表紙題字 | 山形県知事 吉村美栄子
県ホームページアドレス https://www.pref.yamagata.jp/

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

## やまがた伝説 DENSETSU

# 「おくのほそ道」で山形を旅した俳聖・松尾芭蕉。その像が県内にいくつあるか知ってる?

松尾芭蕉は、江戸時代の元禄2年（1689年）、弟子の曽良を伴って今の東京から東北・北陸を旅し、俳句とともに記した紀行文「おくのほそ道」を残しました。最上町堺田から山形県に入り、尾花沢市、山形市山寺、大石田町、新庄市、出羽三山、鶴岡市、酒田市、遊佐町などを訪れ、行く先々で名句を数多く残しています。

芭蕉乗船の地（新庄市）
赤倉ゆけむり館（最上町）
旧有路家住宅（最上町）

芭蕉、清風歴史資料館（尾花沢市）
宝珠山立石寺（山形市）
西光寺（大石田町）
東根六田交差点（東根市）
将棋むら天童タワー（天童市）

「おくのほそ道」の旅は、行程約2,400km、156日間に及びます。なかでも最長となる40泊もの期間、昔の和歌や故事に登場する古き良き言葉や名所・旧跡が残る山形県に滞在し、地元の俳人や文化人の厚いもてなしを受け、句会に参加するなど交流を深めました。また、尾花沢の人々の勧めで、予定にはなかった山寺をわざわざ訪ね、その厳かな情景を「心が澄んでいく」と記しています。

清川歴史公園（庄内町）
日和山公園（酒田市）
出羽三山神社（鶴岡市）

現在、県内の松尾芭蕉縁の地11か所で、芭蕉像や弟子の曽良を伴った像を見ることができます。そこには約330年前と変わらずに、芭蕉が感動して俳句を詠んだ当時の風景が残り、今も多くの人々を魅了しています。皆さんも、芭蕉像を訪ねながら「おくのほそ道」を巡ってみましょう。

芭蕉は人の気持ちを感じ取り句に残す優しい人でした

松尾芭蕉についてお話をお聞きした
**笹原 晋一** さん
芭蕉、清風歴史資料館 館長

尾花沢で詠んだ句「涼しさを 我宿にしてねまる也」の「ねまる」は「くつろぐ」の意味で、もてなしへの感謝を込めて地元の方言を使っています。みなさんも人や風景との出会いを言葉にして伝える気持ちを大切にしてほしいと思います。